



# 神奈川県東ロータリークラブ

## KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2011-2012年度 R I 会長 カルヤン・パネルジー



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012年度 第2590地区ガバナー 上澤摩壽雄

- |           |       |           |        |
|-----------|-------|-----------|--------|
| ● 会長      | 加藤 仁昭 | ● 会長エレクト  | 飯田 泰之  |
| ● 副会長     | 伊東 英紀 | ● 副会長     | 山本 登   |
| ● 幹事      | 天野 公史 | ● 副幹事     | 西山 潔   |
| ● 会計      | 朝日 達夫 | ● 副会計     | 田口 健太郎 |
| ● S A A   | 山本 芳弘 | ● 副 S A A | 吉田 隆男  |
| ● 副 S A A | 横溝 亘  | ● クラブ会報   | 小山市 康  |

●クラブテーマ「感謝・継承・進化」●



写真提供 小山市康会員

- 事務局** ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3  
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555
- 例会日** 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)
- 例会場** ホテルキャメロットジャパン **創立記念日** 昭和 51 年 5 月 29 日
- URL** <http://www.kanagawahigashi.com/>
- E-mail** kerc@beach.ocn.ne.jp

2011-2012年度 第37週報 No. 1736 2012年(平成24年) 4月6日 第1736回例会記録 4月13日発行

**司会** 西山 潔 副幹事

**誕生日祝** 吉田 隆男 会員 (4月6日)  
横山 範夫 会員 (4月6日)

**点鐘** 加藤 仁昭 会長

**斉唱** 「君が代」 「奉仕の理想」



**ロータリーの綱領** 赤堀 和人 雑誌委員長  
(第1例会のみ)

**四つのテスト** 植田 清司 職業奉仕委員長  
(第1例会のみ)

**ゲスト紹介** 財部 誠一 様 (ゲストスピーカー)  
鈴木 一男 様 (OWOP協会 会長)  
宮川 鋼二 様 (入会候補者)

本日〈4月13日〉のプログラム

- ◆ 齊 唱 「我等の生業」
  - ◆ 献 立 牛肉の赤ワインソース
  - ◆ 卓 話 「『ロータリーの友』と私」
- 石川 正三 会員

## 【フェリスの絵本英訳プロジェクトの報告】



OWOP協会 鈴木 一男 会長

### スリランカの町会議長からフェリス女学院校長宛での感謝状

フェリス女学院  
中村校長殿

大層立派で、価値のある英訳付き絵本を頂戴しまして、大変感謝しております。これらの絵本は私どもの町にある幼稚園・保育園に配りましたが、子供たちが毎日の様に読んで大喜びです。

私どもを年中訪れてくれるワンワールド・ワンピープル協会の鈴木会長より、長年に渡り私どもの地域に多くの井戸建設などの支援をなさってくれている神奈川東ロータリークラブがこの英訳絵本プロジェクトにも大変な御尽力を下され、実現したのだと聞いております。

また、この絵本の日本語文章に英訳を付けるなどの作業を行なって下さったフェリス女学院の教師や生徒の皆さんにも心からの感謝の念をお伝えしたいと思います。

この素晴らしい貢献なしに私どもの子供たちがこのような立派な絵本を読める機会はありませんでした。

スリランカ・ポロンナルワ県  
メディリギリヤ町 町会議長  
サンパス スリ ニランタ

- ・当クラブが、マレーシアの図書館へ備品寄贈した記事が、現地の新聞に掲載されておりましたので回覧致します。
- ・米山記念奨学会より、当クラブ2012～2013学年度米山奨学生 李徳雨氏のカウンセラー脇田いずゞ会員に委嘱状が届いておりますのでお渡し致します。



### 幹事報告 天野 公史 幹事

- ・本日、例会終了後に社会奉仕によるクラブフォーラムを開催致します。皆様ご出席の程よろしくお願い致します。
- ・次週、例会終了後に4月度定例理事会を開催致します。
- ・前回に引き続き、「やまだの作文」を回覧致します。

### 委員会報告

#### 雑誌委員会 委員長 赤堀 和人

ロータリーの友4月号を紹介致します。

まず、横組みから、1ページと43ページにR I 指定記事がありますので、必ず読んで下さい。横組みでは、“ありがとう。ロータリアン”と題して、故 亀ヶ谷PGの記事を36ページから紹介しています。また、「ロータリアンの3大義務」と題して39ページに紹介しています。

縦組みでは、2ページから観光とリニア中央新幹線と題して、東海旅客鉄道株式会社 相談役 須田寛様から記事を頂いております。今月号も素晴らしい記事満載ですので、ご一読下さい。

### 会長報告 加藤 仁昭 会長

- ・地区より2014-15年度ガバナーノミニ告知・確定宣言が来ております。当地区指名委員会は、2014-15年度ガバナーノミニ候補者として大野清一（おおのせいいち）氏（横浜東RC）を指名し、また、本年度、他に推薦者がおりませんでしたので、告知と同時に4月3日付にて大野清一氏がガバナーノミニ被指名者に確定したことを宣言しました。

### スマイルボックス 山本 芳弘 SAA

吉田隆男君 誕生日祝い、ありがとうございます。

横山範夫君 ①誕生日祝い、ありがとうございます。本日で63歳となりました。あと何回お花見が出来るのでしょうか。②財部先生、卓話、よろしくお願ひ致します。

加藤仁昭君 ①本日の卓話、財部様、よろしくお願ひします。②ゲストの宮川様、ようこそ。

## 卓 話

### 「日本経済 - 克服すべきは“リアリティ”の欠如」

経済評論家 財部 誠一 様  
(紹介者 加藤 仁昭 会員)



#### 3. 11後の日本経済について

2012年、日本経済はどのように推移していくのだろうか。信頼すべきエコノミストや経営者の多くが、景気の先行きに対して楽観的な見通しを持っている。

被災地での瓦礫処理や仮設住宅の建設は始まっているが、道路を舗装したり、防波堤を補強したり、港湾を整備したりといった本格的な公共事業は第3次補正の成立を待って、これから始まる。その規模は約20兆円と言われている。

阪神淡路大震災の復興費は10兆円で5～6四半期もの間、活発な公共事業が行われた。そう考えると間違いなく2012年いっぱいには日本経済は勢いがでてくる。もちろん業種業態によって景況感に違いはある。

また製造業の海外移転という構造的な問題もあり、一概に景気好転を喜んでいられる状況ではまったくないが、復興需要と中国も含めた強いアジアの成長に支えられ、2012年、日本経済にも薄日が差してきそうだ。

#### 避けて通れぬ規模の拡大

進めぬTPP、超円高、高い法人税、電力供給不安など、グローバル競争において不利な条件を押し付けられてきた日本企業。先進国から新興国へと劇的な経済の構造変化が起こっていた中で震災に遭い、海外シフトを強く意識していかざる得ない状況だ。

そこで起こっているのがM&Aブーム。世界レベルでみると「日本の大企業」は「世界の大企業」ではない。規模の小さな「日本の大企業」は、このままでは激化する世界競争にまったくついていなくなる。今、M&A意欲が急激に高まってきている。その背景には11年3月末で約69兆円という過去に例をみないほどの手元資金の潤沢さがある。そして世界経済のけん引役となったアジアというリングの上で世界のビッグプレーヤーとファイトするには、規模拡大が避けて通れない。

富居利貞君 ご無沙汰致しております。

青柳 紀君 吉田さん、ご長男のご結婚、おめでとうございます。いよいよ待望のおじいちゃんですね。

山本 登君 久しぶりに前の席に座りました。眠れない・・・

河野明光君 SAAさん、オペラ調で“さくら、さくら”を歌って下さい。

大西弘文君 先般、大学卒業50年目と新入学生の盛大な式典が母校の招待で催され、久しぶりに出席して来ました。50年振りの旧友とも久澗を叙して来ました。ああ、母校の親切に感謝、感謝。

伊澤政宏君 OWOP 鈴木会長、ようこそいらっしゃいました。

西山 潔君 加藤会長、天野幹事、川邊さん、先日はお世話になりました。無事、バッグもジャケットも戻って参りました。

茂木知子さん ～七ヶ浜レポートNo1 最強の幹事天野会員の意外な弱点～ 忘れ物【①某女の浴衣の懐に名刺ケース ②プラットホームに旅行カバン ③仙台の誰かさんの胸に挿したロータリーバッジ】は、いまだ行方不明。

脇田いすゞさん 鈴木様、ようこそ！

金森欣一様 財部様、本日はお越し頂き、ありがとうございます。かねてより家内からはお話を伺っていましたが、この様な形でお会い出来るとは夢にも思っておりませんでした。卓話を楽しみに致しております。

横溝 亘君 財部様、本日の卓話、楽しみにしております。

山本芳弘君 先日の大風で瓦が飛びました。早速、角田さんに修復して頂き、ありがとうございます。引き続き、よろしく願い致します。

4月6日	15件	39,000円
本年度累計		1,645,278円

## 出席報告

金森 欣一 出席委員長

会員総数	56名	(39+17)名	
出席会員数	42名	(30+12)名	
出席率	82.35%		
ゲスト	3名	ビジター	0名
前回補正後	87.76%	前々回補正後	95.92%





確かに日本人はものづくりに長け、日本企業はたゆまぬカイゼンにより、世界でもっとも品質の高い製品を生産する能力を持っていることは疑う余地のないことだ。しかし日本メーカーは世界のトップクラスを独占しているのかというと、まったくそうではない。「ものづくり日本」に対する過剰評価以上に問題なのは、日本社会は口でいうほど「ものづくり」に対するこだわりをもっていないという驚くべき現実だ。

その象徴が短絡的な「自然エネルギー」待望論。福島原発事故によって太陽光発電など自然エネルギーに関心が高まることは自然な成り行きだ。しかし、日本国内の自然エネルギー論議には致命的な気楽さが漂っている。

単純に太陽光パネルを日本全国に敷き詰めていったとすれば、日本中の屋根は中国産や台湾産、韓国産のパネルで埋め尽くされてしまうだろう。シャープは早くから太陽光パネル事業に進出しているが、実態は台湾企業から安いパネルを調達している。自然エネルギーへの転換をいかに日本の産業発展、経済発展のチャンスに変えるかが重要なのにその議論が完全に脱落している。グリーンテクノロジーの技術革新、コストダウンによって日本企業が競争力を高め、日本の内需を日本企業がしっかりと取り込んでいくための競争戦略を国家がもたなければならない。ここまで自然エネルギー志向が高まっているというのに、なぜそれが製造業の発展という視点につながっていかないのか不思議でならない。

あのオバマ大統領ですら「いま最も必要なことは製造業の復活、外貨の獲得だ」と語っている。グリーンテクノロジーの分野で、米国の製造業を一気にブレイクさせることで、雇用を増やし、消費を拡大し、経済成長をはかろうとしているのだ。民主党政権にはこうした発想が皆無だ。メディアの見識も相当にレベルが低い。企業が広い世界観をもってM&A投資枠を広げているというのに、政治とマスコミは世界の実態をまるで知らない。ここに日本の本当の危機がある。

### 欧州の金融危機

欧州危機の最終局面はどうか。EUや独仏が切望するような秩序ある決着にたどりつけるとはとうてい思えない。ひとことと言えば欧州にはまだまだ危機感が足りない。ギリシャ国内に広がるIMFによる合理化策への強い反発や、EFSF（欧州金融安定基金）の機能拡充策に対してスロバキア議会が最後の最後まで抵抗した姿を見ると、金融システム崩壊がもたらす本当の恐怖がまるで伝わっていないことがよくわかる。

さらにいえば、本質的にはドイツの国内世論も似たようなもので、ギリシャのような怠け者のために、ドイツ国民の税金が投入されることへの苛立ちは日に日に高まっている。

これまで世界は何度となく、バブル経済崩壊に続く金融危機を経験してきたが、危機収束の最終局面は例外なしに破滅的な状況に陥っている。パッチワーク的な対応で先送りにしたあげく、最後は納税者の誰もが公的資金投入に同意をせざるえない空気が醸成されるまで金融危機は深刻化していくものなのだ。

10月10日フランス、ベルギー、ルクセンブルクの3国にまたがる大銀行デクシアが破綻前に解体、国有化された。リーマン・ショック時の大混乱を強く意識した管理型精算だ。しかしそれだけで事が収まるとはとうてい思えない。

欧州全体で200兆円とも言われる不良債権の処理は簡単には終わらない。市場関係者の間では欧州の名門銀行の破綻も噂されている。そこまで事態が緊急性を帯びてこない限り、欧州危機は終結しないということなのだろう。

クライマックスがいつになるのかはわからないが、その際には日本も無傷では済まされず、欧州から目が離せない。

### Asiaの時代に本格突入

一方、中国、インド、アセアンの経済成長の勢いは今年も止まらない。中国の経済成長は9%を維持している。日中関係いろいろ騒がれているが、日本の輸出入を足した貿易総額の推移を見てみると、過去、米国は1990年に27.4%だったのが、2000年には25%、2009年には13.5%と縮小。反対に中国は1990年には3%だったが、2009年には20.5%、台湾、香港、シンガポールを含めると30%。全盛期のアメリカより取引は大きい。

今、日本の最大の客は中国だ。中国だけではなくこれから新興国すべてが日本の客になりうる。中国、インド、ASEAN、アジアの中間所得層の台頭は想像以上だ。現在の中間所得層、所得1万ドル世帯の人口は2億人。それが2030年には16億人に増加すると予想されている。

所得上昇につれ高い品質が求められる。電力不足の新興国で多くの人が電化製品を使うようになればエコ機能が重視されてくる。現在は薄利多売のアジア市場だか、近い将来、高品質、省エネで壊れにくい日本製品の価値が理解されてくる。

世界のGDPのシェアで見ると、2000年までは80:20で8割を先進国が占めていたのに、2008年は70:30に落ち、2014年には63:37、2020年には先進国と新興国の経済規模は並ぶと予想されている。新興国にコミットしないという選択はない。

### GEが仕掛けるリバース・イノベーション

世界屈指のコングロマリットGE。GEの真骨頂はイノベーション力だ。リーマン・ショックを境に世界経済は先進国から新興国へとドラスタックに転換しつつあるなかで、GEが世界を仰天させるビジネスモデルを創出した。それは「リバース・イノベーション」だ。

これまでGEは技術開発、商品化すべて米国本社がその機能を持ち、新興国は営業拠点でしかなかった。GEの主な顧客は高額製品を購入する先進国で、新興国にはそれにマイナーチェンジを加え販売していた。しかしそれでも高価で新興国には手が出ない。そこでGEは製品開発を中国で行い1000ドルの携帯型心電計、ノートパソコンを利用する1万5000ドルの超音波診断装置を開発。これらが画期的だったのは小型で低価格であるというだけではなく、中国だけでなく米国国内でもヒットしたというところだ。新興国で製品開発し先進国市場にも投入するというビジネススタイル、これが「リバース・イノベーション」だ。

10年前は米国、欧州、日本、その他、と3地域に分けて販売戦略を立てていたGEは、今は「資源大国」、「人口大国」、「その他」に変わった。日本は「その他」になってしまった。

2~3%の成長率が限界になりつつある先進国市場の魅力が急低下する一方で、「資源」「人口」を持つ国こそが未来を左右する主戦場とみなされるようになったのだ。

## 社会奉仕クラブフォーラム

### テーマ「東日本大震災について」

4月6日（金）例会終了後に社会奉仕による第五回クラブフォーラムが開催されました。



#### 社会奉仕委員会 委員長 川邊 正男

新年度に入り、加藤会長より東日本大震災の復興に際して相手の見える支援をしていきたいとの方針が有り、何処の市、町が良いか？また、ロータリークラブは在るのか？をインターネットで探しました。

数多くの被災地が在り迷いましたが、比較的被害が多く、支援の少ない所ということで、宮城県七ヶ浜町に決めて現地のロータリークラブへ連絡を取り、（当初は前年度会長 遠藤氏）被害状況、支援の状況を確認しました。（当年度幹事 渡邊氏）

その結果、4ヶ月経っても支援が中々届かず（会員20名の小さいクラブと言うこともあり）支援を待ち望んでいました。そして会長、幹事と相談の上、9月17日に現地へ視察訪問をしました。

そこでの打合せにより、支援品を消防団用のパルーン投光機、及び仮設住宅内の情報掲示板と決定しました。

また、町役場（財政課）との打合せでは、ふるさと納税による支援を併せて実施することに決め、多くの会員の協力を得て、330万円を超える額の支援をすることが出来ました。

ワンワールド・ワンピープル協会の鈴木会長もこの話を聞き、何か支援出来ないかとのことでしたので、町役場と打合せをして、子育て支援センターへ収納ラックを寄贈して頂きました。

七ヶ浜ロータリークラブと町役場との打合せで、贈呈式を3月28日に予定して頂き、七ヶ浜からは町長はじめ消防団長、七ヶ浜ロータリークラブのメンバー等多くの方の出席で執り行われました。それに先立ち3月27日の夕方、七ヶ浜ロータリークラブのメンバー13名、当クラブメンバー12名の出席で交流会を開催しました。

会長はじめ出席メンバーと胸襟を開いた話が出来ました。今後もし是非支援を続けて頂きたいとの要望も有りました。

最後に、今後も復興支援（ふるさと納税も併せて）並びに、クラ

ブ同士の交流も続けられれば良いと思いました。

また、七ヶ浜ロータリークラブもそれを望んでいます。

## ロータリーニュース

### R I 会長がアフガニスタン大統領にポリオメダルを授与

カルヤン・バネルジーR I 会長は4月2日、アフガニスタンの首都カブールにて、世界ポリオ撲滅推進計画におけるアフガニスタン政府の支援を称えるため、ハミド・カルザイ大統領にポリオメダルを授与しました。

アフガニスタンを訪れた最初のR I 会長となったバネルジー会長ですが、この訪問はスティーブンR. ブラウン財団管理委員およびファリー・モイニ氏（いずれも米国カリフォルニア州ラホーヤ・ゴールドデン・トライアングル・ロータリー・クラブ会員）の尽力によって実現しました。同クラブでは、多くの教育的プログラムをアフガニスタンのジャララバードで実施してきた経緯があります。

45分間の会合でカルザイ大統領とバネルジー会長は、インドがポリオ常在国リストから除外されたことやインドにおけるポリオ撲滅活動から得られた知識をアフガニスタンでも生かすことが出来るという内容について話し合いました。

「アフガニスタンでの予防接種活動を引き続き集中的に行って頂きたいと大統領にお願いしました。確かにまだいつ撲滅が達成出来るのかはっきりとした期日を定めることは出来ませんが、予防接種活動を積極的に継続することによってその日は必ず訪れます」とバネルジー会長は述べます。

### ポリオ撲滅活動への引き続きの支援

カルザイ大統領は、アフガニスタン政府としてポリオ撲滅活動を引き続き支援していくこと、また、アフガニスタン国民に対し、ポリオワクチンを子どもに投与することの重要性を伝えていく決意を話しました。

バネルジー会長は、インドでの撲滅活動を支援したイスラム系指導者が、アフガニスタンで同様な立場にいる指導者に働きかけ、活動を後押し出来るだろうと述べ、インドにおいてはイスラム聖職者の支援を得て予防接種への理解を広めた経緯に言及しました。それだけでなく、インドとアフガニスタン間で医療チームの交換を行い、ポリオ撲滅を成功に導くための方法や、アフガニスタンが直面している撲滅活動における課題を学ぶことも可能であると述べました。

アフガニスタンは、野生ポリオウイルスが常在する3カ国のうちの1つです。2012年に報告された世界的なポリオ発症件数は36件ですが、そのうち5件がアフガニスタンで発生しています。2011年には、同国で80件の報告がありました。ウイルス常在3カ国のうち残りの2カ国はナイジェリアとパキスタンですが、アフガニスタンと国境を接しているパキスタンとの間のウイルスの伝播を抑えるには、両国間の協力が不可欠です。パキスタンでのポリオ発症件数は2011年が198件、2012年にはこれまで15件となっています。

## アフガニスタンにおけるロータリーの活動

今回のパネルジー会長のアフガニスタン訪問に同行したのは、上述のブラウン管理委員とモイニ氏、ジャララバード・ロータリー・クラブ会員でアフガニスタンのポリオ・プラス委員長であるアジュマル・パルディス博士、同じくジャララバード・ロータリー・クラブのモハマド・イシャク氏でした。

ブラウン管理委員とモイニ氏は、アフガニスタンでさまざまなプロジェクトを実施してきてだけでなく、全国予防接種日にも参加しています。

両氏が所属するラホーヤ・ゴールデン・トライアングル・ロータリー・クラブでは、教育的プログラムとして、アフガニスタンの13の学校でインターネット研修を実施、また、ジャララバードでは研修施設を運営しています。

このプログラムは、テクノロジーやカリキュラムの開発、国際協力を大きな目的としています。



アフガニスタン政府による世界ポリオ撲滅推進活動への支援を称え、ハミド・カルザイ大統領にメダルを授与するカルヤン・パネルジーRI会長

国際ロータリー・ニュース

## シェルターボックスがロータリーのプロジェクトパートナーに

国際ロータリー（RI）と災害救援団体「シェルターボックス」は、今月、プロジェクトパートナーの提携を結びました。両団体は今後より密接な協力関係を築き、自然災害の被災者へ緊急支援や仮設シェルターを提供することとなります。

「プロジェクトパートナー」とは、ロータリー・クラブにより設立または管理され、RIと特別な協力関係を結ぶグループを指します。この提携関係は、両者の強みを生かして、世界の被災地で救援活動にあたるのがねらいです。

「ロータリーの仲間にもいつも支えられてきました。寛大なご寄付から現地での直接支援まで、シェルターボックスの中核を成してきたのがロータリーです」と話すのは、シェルターボックスのCEO、トム・ヘンダーソンさんです。「被災してすべてを失った人々に緊要な支援を提供するため、全世界34,000のクラブと協力出来ることを非常に心強く思います」

## 人命を救う

「今回の提携により、被災直後のロータリー・クラブによる現地での支援確保がしやすくなる」とジョン・ヒューコRI事務総長。「今後、各地のクラブが”シェルターボックス”の配布に一層協力できるようになるでしょう」

救援物資を収めた”シェルターボックス”には、悪天候にも持ちこたえられる特注テント、調理用コンロ、浄水キット、毛布、工具、その他の生活必需品が納められており、このボックスがあれば1家族が災害後6カ月間、生活出来ます。

かつて英国海軍の潜水士を務め土木技師でもあったヘンダーソンさんは、2000年にシェルターボックスを創設しました。これまで、訓練を受けた救援ボランティア要員が、80カ国近く、175以上の被災地に救援物資を届けてきました。

今年3月上旬には、大型サイクロンが壊滅的な被害をもたらした住民25万人以上が家を失ったマダガスカルで、550以上のテントを提供しました。

## 共通の目標の下に

「シェルターボックスは、10年以上活動を続け、暗闇の中にあつた世界各地の被災家族10万世帯以上に、光を灯してきました」と続けるヒューコ事務総長。「助けを必要とする人々に支援の手を差し伸べるという共通の目標の下、今回の提携が決まりました。被災地への緊急支援に向けて、RIがさらに大きく貢献していくことが出来るでしょう」

ヘンダーソンさんは、「過去12年間続けてきた私たちの活動が、RIから正式に認められ、活動に対するロータリアンからの理解も得やすくなるでしょう。世界中のロータリアンから、信頼のおける災害救援団体としてシェルターボックスが認識されれば、今後の活動の発展が大きく期待出来ます」



マダガスカルの被災地で提供されたシェルターボックスのテント

記事：Ryan Hyland  
国際ロータリー・ニュース

次回《4月20日》の卓話予定  
テーマ「NPB（日本野球機構）と  
MLB（メジャーリーグベースボール）」  
元横浜ベイスターズ 編成部長 堀井 恒雄 様  
（紹介者 加藤 仁昭 会員）